



新しい審査システムに関する アンケートについて



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

研究事業部

令和2年1月29日

アンケートの概要

○主旨

旧審査方式(二段審査方式)と新しい審査方式(総合審査、2段階書面審査)の両方を経験したことのある審査委員に対し、アンケートを実施することで、新しい審査方式で改善された点の検証と更なる改善に向けた検討に活用する。

○対象者

平成31年度審査の基盤研究(A・B・C)、若手研究、挑戦的研究を担当した審査委員のうち、旧審査方式において書面審査または合議審査のどちらか一方でも審査した経験がある審査委員。

○調査時期

平成31年4月～6月

○調査件数

	総合審査			2段階書面審査				合計
		基盤研究 (A)	挑戦的 研究		基盤研究 (B)	基盤研究 (C)	若手研究	
対象者数	713	347	366	2,952	1,099	1,165	688	3,665
回答者数	455	227	228	1,620	577	667	376	2,075
回答率	63.8%	65.4%	62.3%	54.9%	52.5%	57.3%	54.7%	56.6%

○調査方法

WEBによるアンケート

○アンケートの全項目

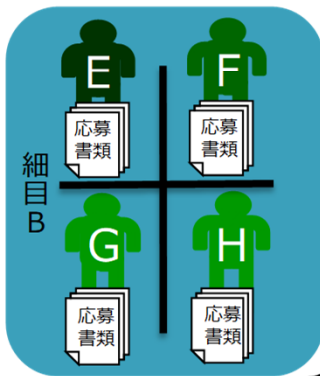
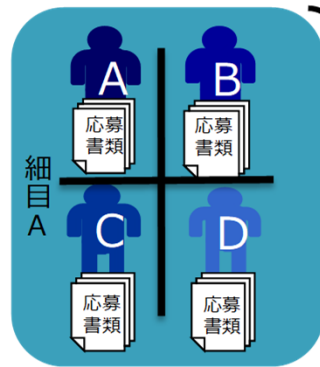
スライド19以降参照

(参考資料) 審査方式の見直し(新旧比較)

【旧方式】2段階審査方式(分科細目表)

書面審査(細目ごと)

1 課題あたり、4名又は6名の審査委員が書面審査を電子システム上で個別に実施。

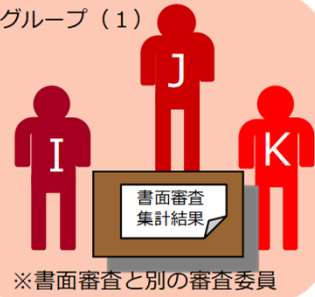


合議審査(〇〇小委員会)

3~5名程度の審査委員が書面審査結果に基づき、分科ごと(人社系は細目ごと)のグループで合議審査を実施し、採否を決定。

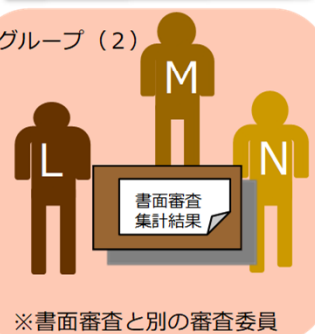
<〇〇小委員会>

グループ(1)



※書面審査と別の審査委員

グループ(2)



※書面審査と別の審査委員

グループごとの合議審査後、小委員会として採否を決定

※「書面審査を行った審査委員」が、他の審査委員の審査意見等を参照し、自身の審査内容を再検討できるシステムではなかった。

【見直し後】

※「書面審査を行った審査委員」が、他の審査委員の審査意見等を参照し、自身の審査内容を再検討できるシステムへと変更

① 総合審査(中区分、大区分)

書面審査(中区分、大区分ごと)

1 課題当たり、より幅広い分野にわたって(「中区分」ごと)配置された複数名の審査委員が電子システム上で書面審査(相対評価)を実施。



合議審査(中区分、大区分ごと)

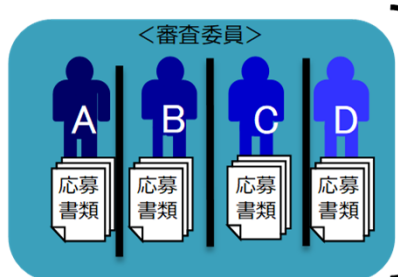
書面審査の集計結果をもとに、書面審査と同一の審査委員が合議によって多角的な審査を実施し、採否を決定。



② 2段階書面審査方式(小区分)

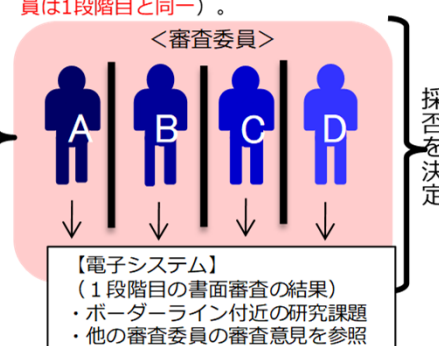
1段階目の書面審査(小区分ごと)

1 課題当たり、「小区分」ごとに配置された複数名の審査委員が電子システム上で書面審査を(相対評価)を実施。



2段階目の書面審査(小区分ごと)

1 段階目の書面審査の集計結果をもとに、他の委員の審査意見も参考に電子システム上で2段階目の評点を付け、採否を決定(審査委員は1段階目と同一)。



アンケートの結果(抜粋版)

旧審査方式(二段審査方式)と新しい審査方式(総合審査、2段階書面審査)の両方を経験したことのあ
る審査委員に対し、新しい審査方式についてアンケートを実施。

新しい審査方式については、以下のとおり、おおむね好意的な結果(詳細は各スライド参照)。

【総合審査について】

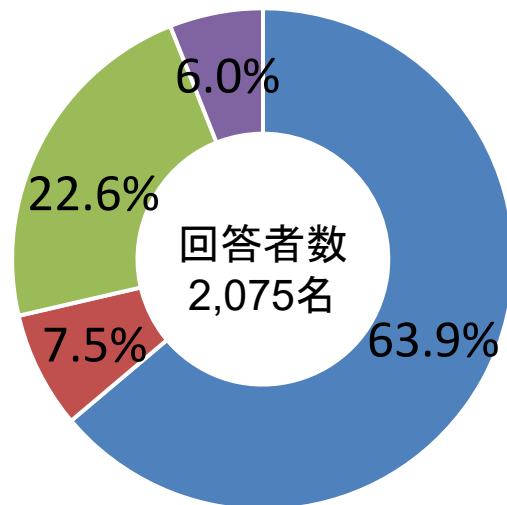
- 旧審査方式に比べ、合議審査が充実し審査が深まったと思うか？(回答者数206名)という質問に対し、
「思う」又は「やや思う」の割合が90%以上(スライド8)
- 総合審査方式の良いと思うこと(O)、改善すべきと思うこと(△)(自由記述等の抜粋)(スライド11~13)
 - 自身の専門とは多少離れた分野でも、合議審査において意見を聞くことで理解を深めることができた。
 - 書面審査と合議審査を同一の審査委員が行うため、審査に対する責任感と応募課題への理解が増し、より慎重で公正な審査が可能となる。
 - 合議審査の過程で、挑戦的研究の審査基準の解釈の確認ができた。
 - △ すべての応募課題に1つ1つ目を通す必要があるため、(一人当たりの)審査件数を減らすことはできないか。
 - △ 合議審査の時間にも限りがあるため、書面審査の上位数%のみを対象とすることや審査会冒頭の概要説明を省略することはできないか。

【2段階書面審査について】

- 旧審査方式に比べ、応募課題への理解を深めた上で審査ができたと思うか？(回答者数451名)という質問に対し、
「思う」又は「やや思う」の割合が85%以上(スライド8)
- 2段階書面審査方式の良いと思うこと(O)、改善すべきと思うこと(△)(自由記述等の抜粋)(スライド16~18)
 - 他の審査委員の評価や意見が分かるので、自身の審査の妥当性を客観的に見直せることや、審査委員の質の向上が期待できる。
 - 1段階目と2段階目の審査を同一の審査委員が行うことで、十分に応募内容を把握した上で2段階目を行うため、効率化が図られている。
 - △ 自身の専門とは多少離れた分野の審査が困難であった。
 - △ 他の審査委員の審査意見が短かったり、具体性に欠けていたりして、理解することが難しいものがあったため、審査委員によって基準が異なるないように、審査意見の書き方を統一してほしい。

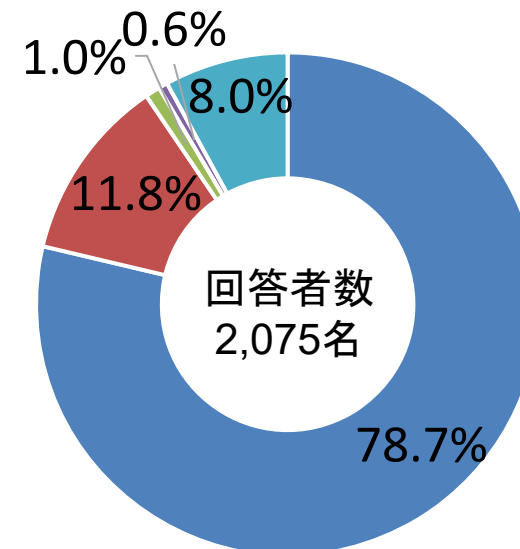
回答者の属性

所属機関の種別



- 国立大学(大学共同利用機関法人含む)
- 公立大学
- 私立大学
- その他

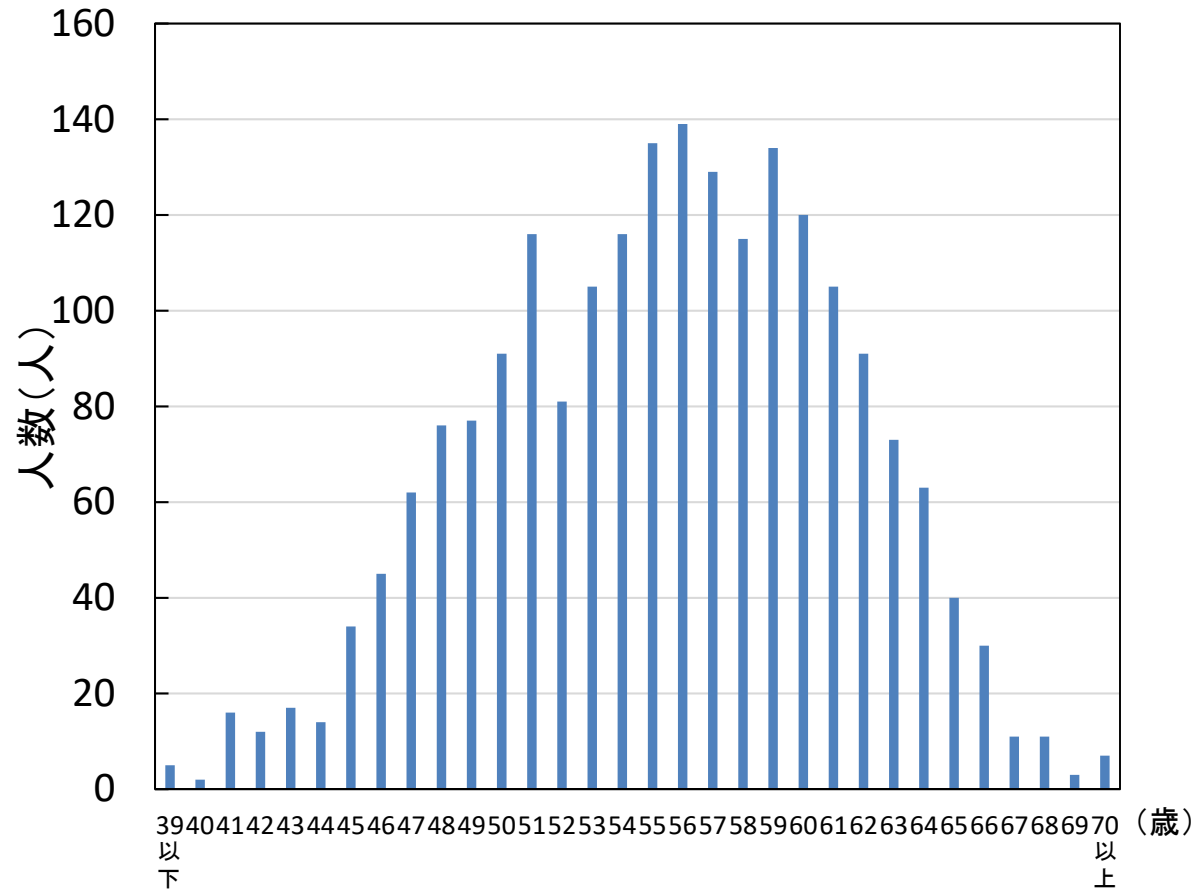
現在の職位



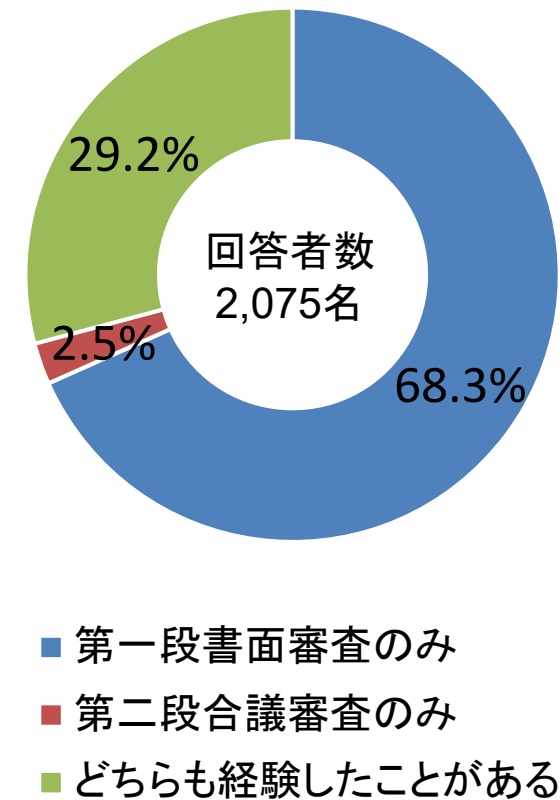
- 教授
- 准教授
- 講師
- 助教
- その他

回答者の属性

年齢別人数



経験した旧審査方式



集計結果

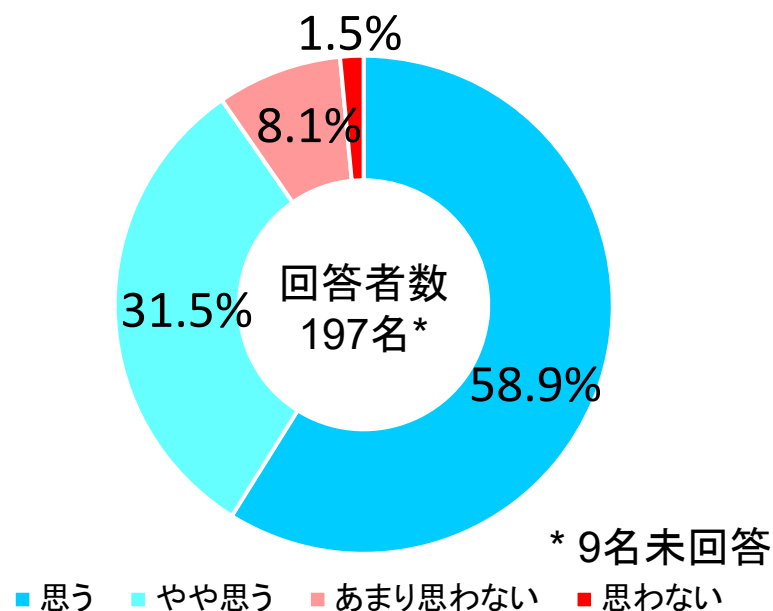
アンケート項目① 総合審査、2段階書面審査

【対象】

旧審査方式で「第二段合議審査」を経験した者のうち、今回、総合審査を経験した者(回答者数206名)

【質問】

①旧審査方式(二段審査方式)に比べ、合議審査が充実し審査が深まったと思いますか？

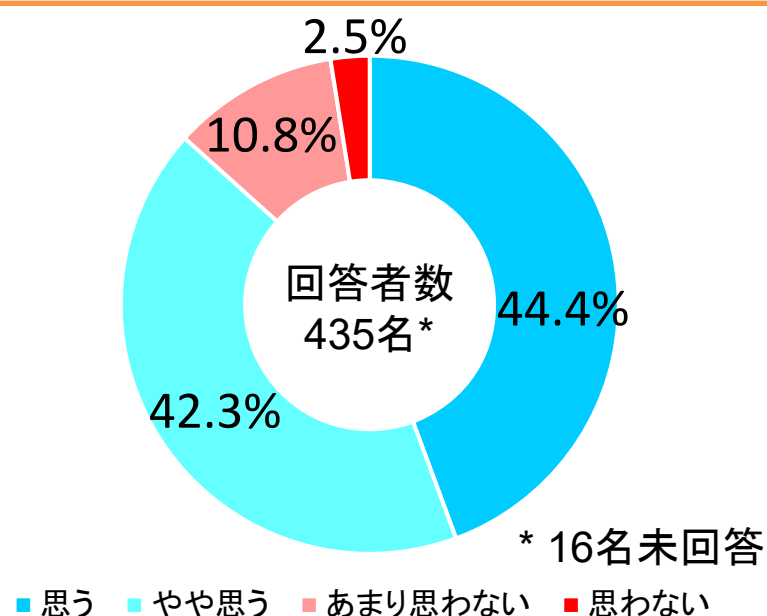


【対象】

旧審査方式で「第二段合議審査」を経験した者のうち、今回、2段階書面審査を経験した者(回答者数451名)

【質問】

①旧審査方式(二段審査方式)に比べ、応募課題への理解を深めた上で審査ができたと思いますか？



- 「思う」又は「やや思う」の回答割合は、総合審査が約90%、2段階書面審査が約87%。
⇒ 旧審査方式と比較して、全体的に審査が深まったと考えられる。
- 総合審査の方が、2段階書面審査より、「思う」の割合が約1.3倍高い。
⇒ 合議審査を行うことで、さらに審査への理解が深まっている。

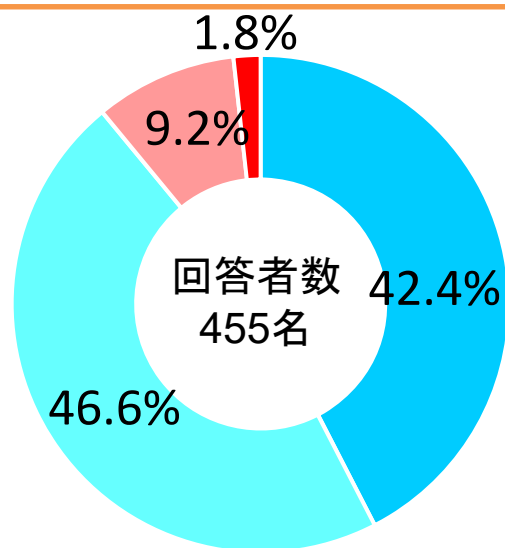
アンケート項目②③ 総合審査

【対象】

旧審査方式(「第一段書面審査」又は「第二段合議審査」)を経験した者のうち、今回、総合審査を経験した者(回答者数455名)

【質問】

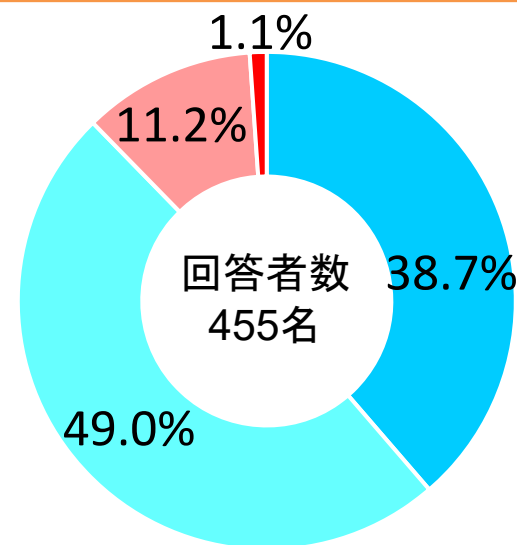
②御自身の専門とは多少離れた分野の応募課題でも、議論をした上で内容の理解を深め審査を進めることができましたと思いますか？



■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない

【質問】

③御自身の分野に近い応募課題について、他の審査委員の理解を深めることに貢献できたと思いますか？



■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない

- 審査の理解度を問う質問②、③において、いずれも、「思う」又は「やや思う」が約87%以上。
⇒ 自身の専門と多少離れた分野の審査委員の間であっても、議論を通じて概ね内容を理解して審査できたと考えられる。
- 質問②、③とも、「あまり思わない」又は「思わない」が約10%。
⇒ 自身の専門と多少離れた分野の審査委員の間での理解には、まだ改善の余地がある。

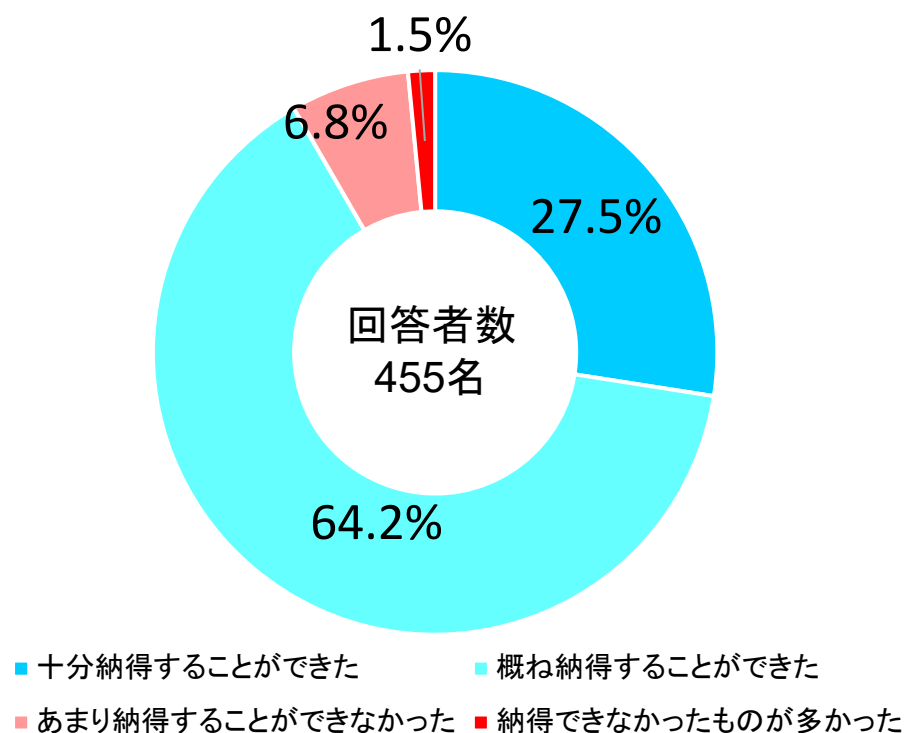
アンケート項目④ 総合審査

【対象】

旧審査方式(「第一段書面審査」又は「第二段合議審査」)を経験した者のうち、今回、総合審査を経験した者(回答者数455名)

【質問】

④書面審査時の御自身の意見と異なった意見が出たとしても、議論を行うことで納得することができましたか。



➤ 「十分納得することができた」又は「概ね納得することができた」の回答割合が約92%

アンケート項目⑤⑥<1/3> 総合審査

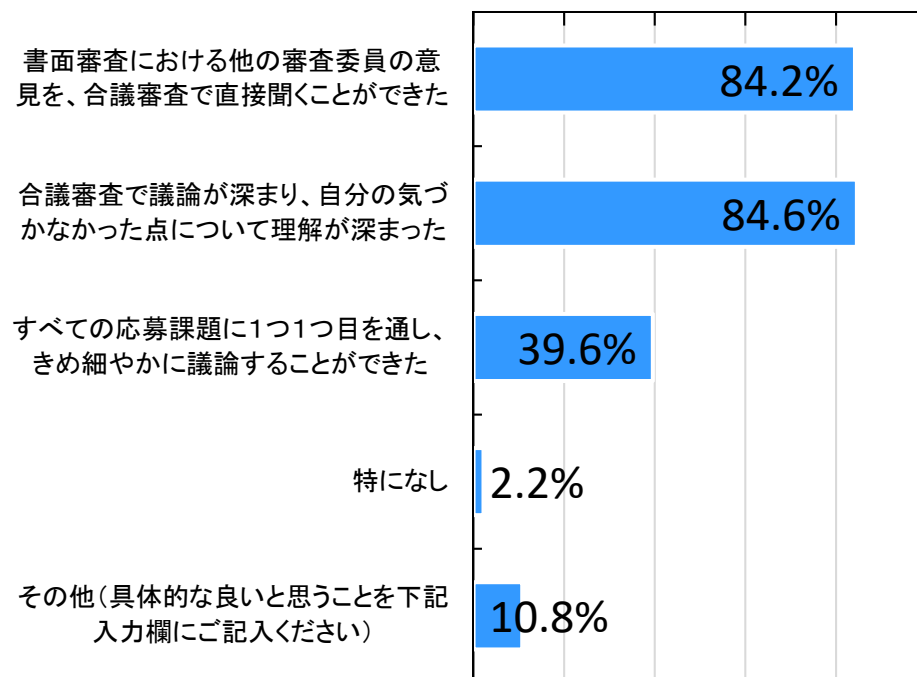
【対象】

旧審査方式(「第一段書面審査」又は「第二段合議審査」)を経験した者のうち、今回、総合審査を経験した者(回答者数455名)

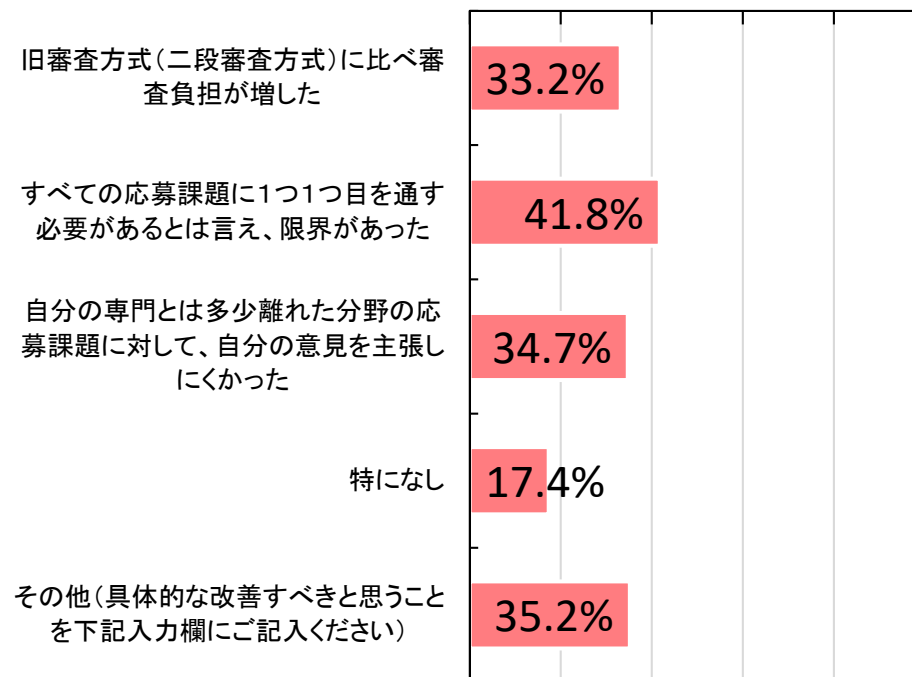
【質問】⑤今回実施した新しい審査方式である「総合審査方式」の良いと思うことについて選択してください。(複数選択可)

【質問】⑥今回実施した新しい審査方式である「総合審査方式」の改善すべきと思うことについて選択してください。(複数選択可)

回答者数455名に対する割合
0% 20% 40% 60% 80% 100%



回答者数455名に対する割合
0% 20% 40% 60% 80% 100%



アンケート項目⑤⑥<2/3> 総合審査

【対象】

旧審査方式(「第一段書面審査」又は「第二段合議審査」)を経験した者のうち、今回、総合審査を経験した者(回答者数455名)

【質問】⑤今回実施した新しい審査方式である「総合審査方式」の良いと思うことについて選択してください。(複数選択可)

【「その他」の主な意見(下線: 多かった意見; ★: 「挑戦的研究」に特有の意見)】

- 自身の専門とは多少離れた分野でも、合議審査において意見を聞くことで理解を深めることができた。
- 書面審査と合議審査を同一の審査委員が行うため、審査に対する責任感と応募課題への理解が増し、より慎重で公正な審査が可能となる。
- (★) 合議審査の過程で、挑戦的研究の審査基準の解釈の確認ができた。
- (★) 事前選考により総合審査での審査件数を絞り込んだため、合議審査で一つ一つ目を通して議論することができた。この審査方式が合理的で妥当な方法であると思う。

【質問】⑥今回実施した新しい審査方式である「総合審査方式」の改善すべきと思うことについて選択してください。(複数選択可)

【「その他」の主な意見(下線: 多かった意見; ★: 「挑戦的研究」に特有の意見)】

(専門性や研究分野に対する懸念)

- 審査委員の専門分野に偏りがあると、合議審査の際に議論や評価が偏る可能性があるため、評価が偏らないよう複数の専門分野の審査委員を配置するなどした方が良い。
- 自身の専門とは多少離れた分野の審査の評価が困難であった。

アンケート項目⑤⑥<3/3> 総合審査

【質問】⑥今回実施した新しい審査方式である「総合審査方式」の改善すべきと思うことについて選択してください。
(複数選択可)

【「その他」の主な意見(下線: 多かった意見; ★: 「挑戦的研究」に特有の意見)】(つづき)

(審査の進め方)

- 合議審査の時間にも限りがあるため、書面審査の上位数%のみを対象とすることや審査会冒頭の概要説明を省略することはできないか。
- (★) 挑戦的研究において、合議審査で議論を重ねすぎることによって、かえって無難・保守的な課題を採択するおそれがあるのではないか。書類審査のみの方が、思い切って挑戦性を評価できる場合もあると思った。

(審査の基準)

- (★) 最初に、真に挑戦性を有しているかを判断し、その後、挑戦性の優劣、研究計画の論理性などを判断する方法もあるのではないか。

(審査スケジュール)

- 重複応募に伴う「基盤研究(A)」の廃止をなくすため、「特別推進研究」、「基盤研究(S)」から採択を決めるなど、審査スケジュールを見直す必要があるのではないか。
- 書面審査から合議審査までの期間が長いため、記憶が鮮明なうちに合議審査をできないか。

(その他全般)

- 審査負担が増しているため、審査委員を増員するなどの対策をしてほしい。

➤ 質問⑤において、良いと思うことが「特になし」の回答割合が少ない。

⇒ 多くの審査委員が何らかのメリットを感じていると考えられる。

➤ 質問⑥において、各改善すべき点について、その必要性を感じた者が約40%存在する。

⇒ 学術研究の過度の細分化(たこつぼ化)を是正し、多角的な審査を行うという審査システム改革の趣旨に照らすと、総合審査方式は審査委員の理解度を深めるのに役立つなど、ある程度効果があったと考えられる一方で、審査負担の面や、合議審査時の時間配分などについては、まだ改善の余地がある。

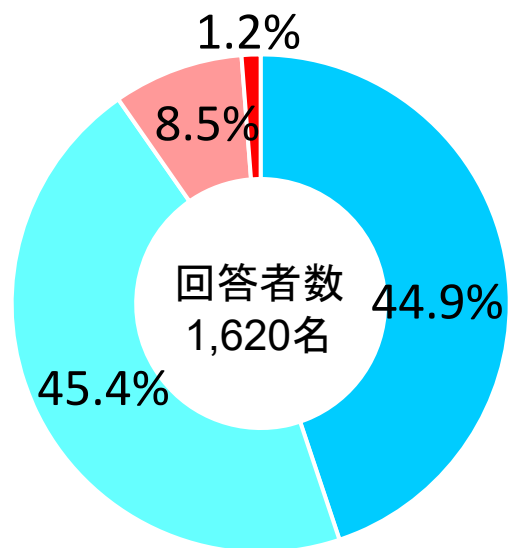
アンケート項目②③ 2段階書面審査

【対象】

旧審査方式(「第一段書面審査」又は「第二段合議審査」)を経験した者のうち、今回、2段階書面審査を経験した者(回答者数1,620名)

【質問】

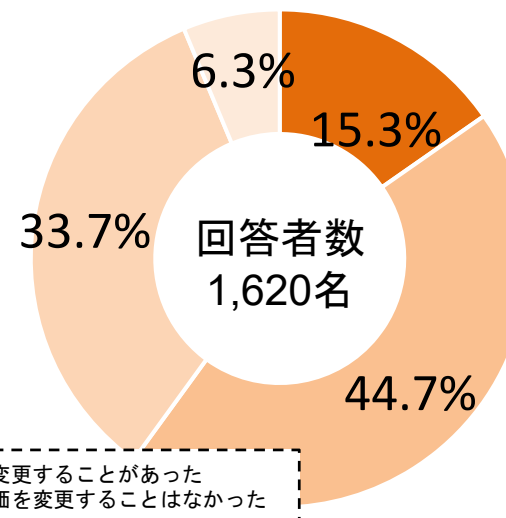
②2段階目の審査において、他の審査委員の評価を踏まえ内容を理解し審査をすることができたと思いますか。



■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない

【質問】

③2段階目の審査において、他の審査委員の評価を踏まえ納得した上で、御自身が1段階目の審査で付した評価を変更するようなことはありましたか。



※思う：評価を変更することがあった
思わない：評価を変更することはなかった

■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない

➤ 質問②で「思う」又は「やや思う」が約90%を占めるのに対し、質問③は「やや思う」又は「あまり思わない」が主だった。

⇒ 質問③の回答が「思う」や「思わない」に過度に偏っていないことから、他の審査委員の意見をある程度理解して参考にしつつも、完全にそれに流されることなく評点を付していることが考えられる。

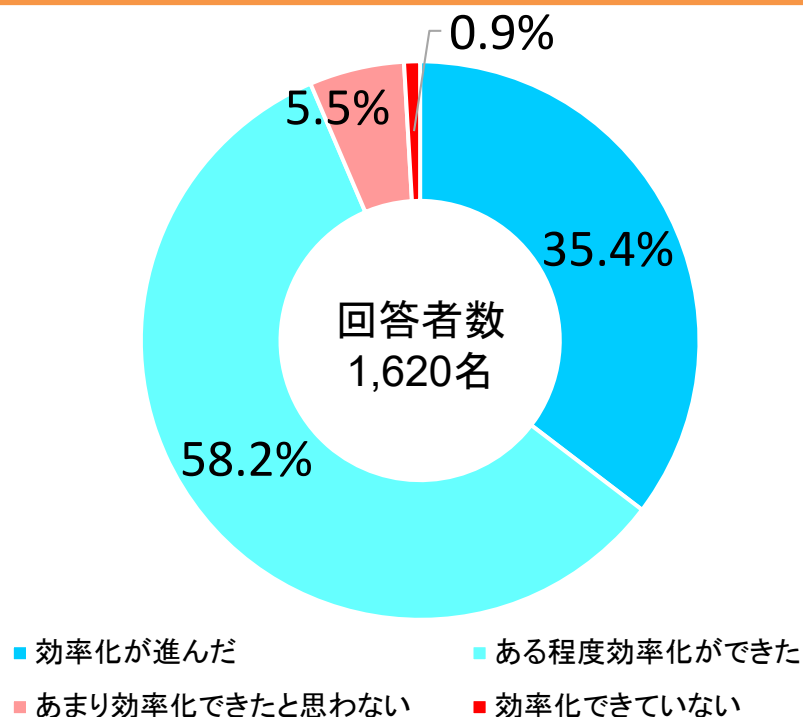
アンケート項目④ 2段階書面審査

【対象】

旧審査方式(「第一段書面審査」又は「第二段合議審査」)を経験した者のうち、今回、2段階書面審査を経験した者(回答者数1,620名)

【質問】

④応募件数が多い研究種目を対象とする新しい審査方式(2段階書面審査方式)では合議審査を実施していませんが、旧審査方式(二段審査方式)に比べて審査の効率化が図られていると思いますか。



➤ 「効率化が進んだ」又は「ある程度効率化ができた」の回答割合が約94%
⇒ 審査の効率化がある程度図られていることがわかる。

アンケート項目⑤⑥ <1/3> 2段階書面審査

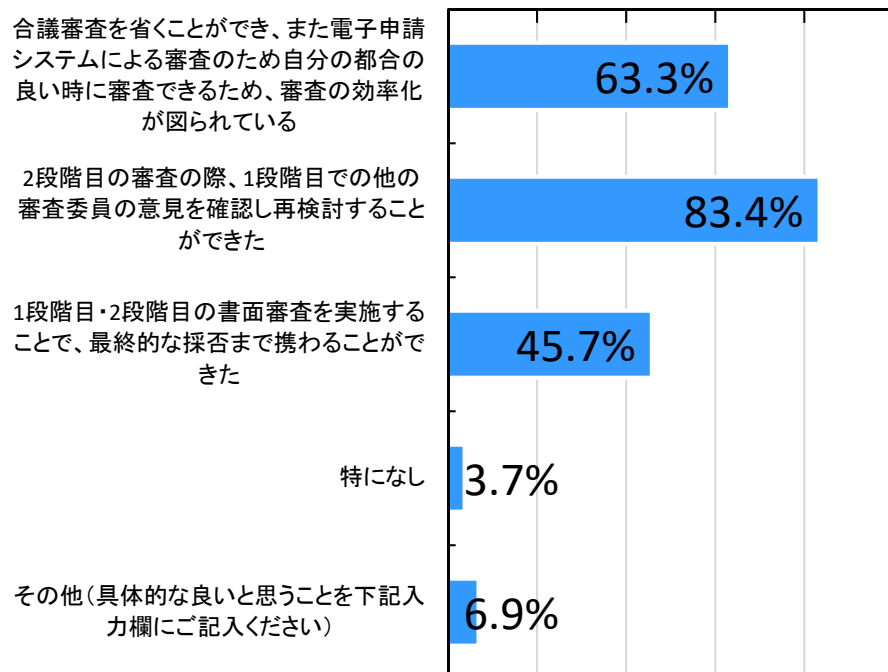
【対象】

旧審査方式(「第一段書面審査」又は「第二段合議審査」)を経験した者のうち、今回、2段階書面審査を経験した者(回答者数1,620名)

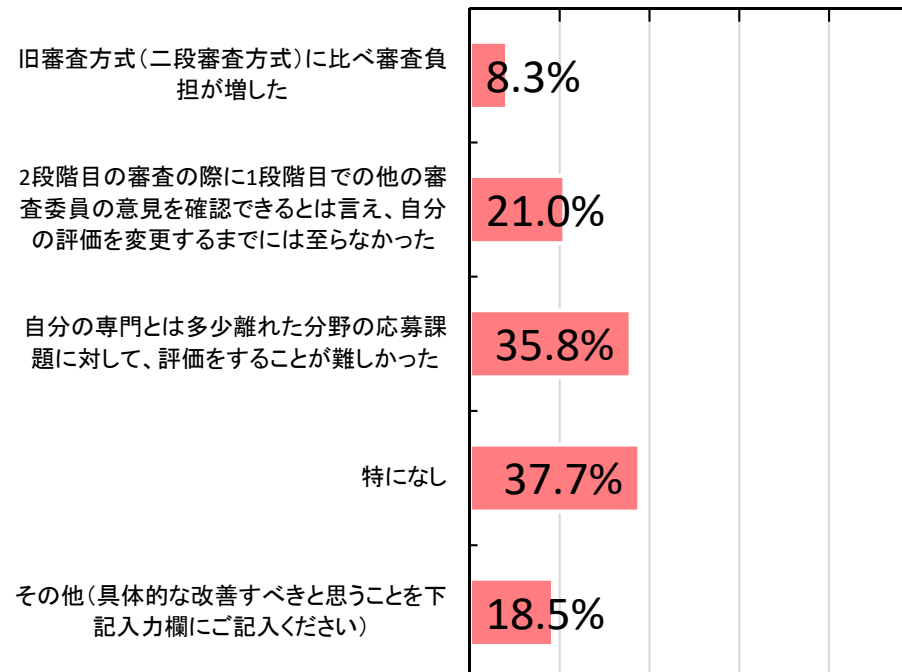
【質問】⑤今回実施した新しい審査方式である「2段階書面審査方式」の良いと思うことについて選択してください。(複数選択可)

【質問】⑥今回実施した新しい審査方式である「2段階書面審査方式」の改善すべきと思うことについて選択してください。(複数選択可)

回答者数1,620名に対する割合
0% 20% 40% 60% 80% 100%



回答者数1,620名に対する割合
0% 20% 40% 60% 80% 100%



アンケート項目⑤⑥ <2/3> 2段階書面審査

【対象】

旧審査方式（「第一段書面審査」又は「第二段合議審査」）を経験した者のうち、今回、2段階書面審査を経験した者（回答者数1,620名）

【質問】

⑤今回実施した新しい審査方式である「2段階書面審査方式」の良いと思うことについて選択してください。（複数選択可）

【「その他」の主な意見（下線：多かった意見）】

- 他の審査委員の評価や意見が分かるので、自身の審査の妥当性を客観的に見直せることや、審査委員の質の向上が期待できる。
- 1段階目と2段階目の審査を同一の審査委員が行うことで、十分に応募内容を把握した上で2段階目を行うため、効率化が図られている。
- 顔を合わせないため、その場の雰囲気流されることがなくなり、各審査委員の意見を公平に判断できる。

アンケート項目⑤⑥ <3/3> 2段階書面審査

【対象】

旧審査方式(「第一段書面審査」又は「第二段合議審査」)を経験した者のうち、今回、2段階書面審査を経験した者(回答者数1,620名)

【質問】⑥今回実施した新しい審査方式である「2段階書面審査方式」の改善すべきと思うことについて選択してください。(複数選択可)

【「その他」の主な意見(下線: 多かった意見)】

(専門性や研究分野に対する懸念)

- 自身の専門とは多少離れた分野の審査が困難であった。

(審査情報の充実)

- 他の審査委員の審査意見が短かったり、具体性に欠けていたりして、理解することが難しいものがあったため、審査委員によって基準が異ならないように、審査意見の書き方を統一してほしい。
- 意見交換する場がないまま文章だけを見て判断することとなるため、2段階目のボーダー付近のみ合議審査とする、3段階目を設ける(意見に対して再度意見をする)など、意見交換ができる場を設けた方がより適正な判断ができるのではないか。
- 他の審査委員の専門分野が分かった方が審査意見を参考にする上で役に立つ。
- 2段階目の審査を行うときに、総合評点以外にも、1段階目の書面審査で審査委員全員が付した評定要素ごとの評点の情報があると、より適切な評価ができるのではないか。

(審査の進め方)

- 明らかに自分と大きく評価が異なる審査委員がいて納得できない場合、意見できる仕組みがあることが、本来は望ましい。

- 質問⑤において、良いと思うことが「特になし」の回答割合が少ない。
⇒ 多くの審査委員が何らかのメリットを感じている。
- 質問⑥において、改善すべき点は「特になし」という意見が約40%であったが、その他の意見として「自分の専門とは多少離れた分野の審査が困難」という意見や、「審査意見の書き方を統一してほしい」という意見があった。
⇒ 「従来より広い審査区分を導入する」という審査システム改革の趣旨や、十分かつ具体的な審査意見を記入する重要性について、引き続き審査委員に周知していくことが考えられる。

(参考)アンケートの全項目

(参考)アンケートの全項目<1/5>

<回答者の属性>

所属機関の種別: 1 国立大学(大学共同利用機関法人含む) 2 公立大学 3 私立大学 4 その他

現在の職位: 1 教授 2 准教授 3 講師 4 助教 5 その他

年齢: 1 ~39歳 2 40~49歳 3 50~59歳 4 60歳~69歳 5 70歳~

平成29年度審査以前に経験したことのある旧審査方式(二段審査方式):

1 第一段書面審査のみ 2 第二段合議審査のみ 3 どちらも経験したことがある

<平成31年度審査(総合審査)の審査委員に対する質問>

①旧審査方式(二段審査方式)の合議審査においては、合議審査を担当する審査委員とは別の審査委員による書面審査の意見を参考に、主としてボーダーライン付近の応募課題を中心に議論していました。今回実施した新しい審査方式である「総合審査方式」では書面審査と合議審査と同じ審査委員が実施いたしました。旧審査方式(二段審査方式)に比べ、合議審査が充実し審査が深まったと思いますか(※質問①は旧審査方式(二段審査方式)で「第二段合議審査」をご経験された方のみご回答をお願いします。)

- 1 思う
- 2 やや思う
- 3 あまり思わない
- 4 思わない

(参考)アンケートの全項目<2/5>

<平成31年度審査(総合審査)の審査委員に対する質問>(つづき)

- ② 今回の審査では、御自身の専門とは多少離れた分野の応募課題でも、議論をした上で内容の理解を深め審査を進めることができましたと思いますか。
- 1 思う
 - 2 やや思う
 - 3 あまり思わない
 - 4 思わない
- ③ 今回の審査では、御自身の分野に近い応募課題について、他の審査委員の理解を深めることに貢献できたと思いますか。
- 1 思う
 - 2 やや思う
 - 3 あまり思わない
 - 4 思わない
- ④ 今回の審査では、書面審査時の御自身の意見と異なった意見が出たとしても、議論を行うことで納得することができましたか。
- 1 十分納得することができた
 - 2 概ね納得することができた
 - 3 あまり納得することができなかった
 - 4 納得できなかったものが多かった

(参考)アンケートの全項目<3/5>

<平成31年度審査(総合審査)の審査委員に対する質問>(つづき)

⑤今回実施した新しい審査方式である「総合審査方式」の良いと思うことについて選択してください。
(複数選択可)

- 1 書面審査における他の審査委員の意見を、合議審査で直接聞くことができた。
- 2 合議審査で議論が深まり、自分の気づかなかった点について理解が深まった。
- 3 すべての応募課題に1つ1つ目を通し、きめ細やかに議論することができた。
- 4 特になし

⑥今回実施した新しい審査方式である「総合審査方式」の改善すべきと思うことについて選択してください。(複数選択可)

- 1 旧審査方式(二段審査方式)に比べ審査負担が増した。
- 2 すべての応募課題に1つ1つ目を通す必要があるとは言え、限界があった。
- 3 自分の専門とは多少離れた分野の応募課題に対して、自分の意見を主張しにくかった。
- 4 特になし

上記の選択肢に無いことで、お気づきの点があればご記入をお願いします。

(参考)アンケートの全項目<4/5>

<平成31年度審査(2段階書面審査)の審査委員に対する質問>

①旧審査方式(二段審査方式)の合議審査においては、合議審査を担当する審査委員とは別の審査委員による書面審査の意見を参考に、主としてボーダーライン付近の応募課題を中心に議論していました。平成30年度助成(平成29年度に実施した審査)からは同じ審査委員が2回書面審査を行う2段階書面審査を導入しましたが、旧審査方式(2段階審査方式)に比べ応募課題への理解を深めた上で審査ができたと思いますか(※質問①は旧審査方式(二段審査方式)で「第二段合議審査」をご経験された方のみご回答をお願いします。)

- 1 思う
- 2 やや思う
- 3 あまり思わない
- 4 思わない

②今回の審査では、2段階目の審査において、他の審査委員の評価を踏まえ内容を理解し審査をすることができたと思いますか。

- 1 思う
- 2 やや思う
- 3 あまり思わない
- 4 思わない

③今回の審査では、2段階目の審査において、他の審査委員の評価を踏まえ納得した上で、御自身が1段階目の審査で付した評価を変更するようなことはありましたか。

- 1 あった
- 2 ややあった
- 3 あまりなかった
- 4 なかった

(参考)アンケートの全項目<5/5>

<平成31年度審査(2段階書面審査)の審査委員に対する質問>(つづき)

- ④応募件数が多い研究種目を対象とする新しい審査方式(2段階書面審査方式)では合議審査を実施していませんが、旧審査方式(二段審査方式)に比べて審査の効率化が図られていると思いますか。
- 1 効率化が進んだ
 - 2 ある程度効率化ができた
 - 3 あまり効率化できたと思わない
 - 4 効率化できていない
- ⑤今回実施した新しい審査方式である「2段階書面審査方式」の良いと思うことについて選択してください。(複数選択可)
- 1 合議審査を省くことができ、また電子申請システムによる審査のため自分の都合の良い時に審査できるため、審査の効率化が図られている。
 - 2 2段階目の審査の際、1段階目での他の審査委員の意見を確認し再検討することができた。
 - 3 1段階目・2段階目の書面審査を実施することで、最終的な採否まで携わることができた。
 - 4 特になし
- ⑥今回実施した新しい審査方式である「2段階書面審査方式」の改善すべきと思うことについて選択してください。(複数選択可)
- 1 旧審査方式(二段審査方式)に比べ審査負担が増した。
 - 2 2段階目の審査の際に1段階目での他の審査委員の意見を確認できるとは言え、自分の評価を変更するまでには至らなかった。
 - 3 自分の専門とは多少離れた分野の応募課題に対して、評価をすることが難しかった。
 - 4 特になし

上記の選択肢に無いことで、お気づきの点があればご記入をお願いいたします。